

<b>Title</b>	著訳者紹介
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No.57, 2014.3 : 7-10
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5090">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5090</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、学校法人聖学院理事長兼院長・聖学院大学学長代行（2013年11月まで学長）兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』（共著）、『神を仰ぎ、人に仕う』（共著）、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』（共著）ほか、著書・論文多数。

澤井 治郎 さわい・じろう

1984年生まれ。天理大学人間学部卒業、東北大学大学院文学研究科博士前期課程、および後期課程修了、博士（文学）。同大学院専門研究員を経て、2014年4月より天理大学附属おやさと研究所助教。専攻は宗教学、宗教思想史。

〔論文〕「ティリッヒの宗教的象徴論にみる『究極的関心』」（『論集』（印度学宗教学会）第36号、2009年）、「ラインホルド・ニーバーにおける宗教理解の展開——『人格性』から『深みの次元』へ」（『文化』（東北大学文学会）第74巻1・2号、2010年）、「ラインホルド・ニーバーとパウル・ティリッヒにおける宗教理解の枠組み」（『論集』（印度学宗教学会）第38号、2011年）など。

松本 周 まつもと・しゅう

東京神学大学大学院修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了、博士（学術）。現在、聖学院大学基礎総合教育部助教、日本基督教団教務教師・上尾使徒教会兼任牧師。

〔著書〕『スピリチュアルケアの実現に向けて』（共著、聖学院大学出版会、2013年）。  
〔論文〕「神学と社会福祉——ラインホルド・ニーバーの視点から」（『キリスト教社会福祉学研究』37号）、「植村正久とP. T. フォーサイスの祈祷論」（『ピューリタニズム研究』6号）、「〈ニーバーの祈り〉とスピリチュアリティ——その日本における受容形態の考察」（『聖学院大学総合研究所紀要』53号）「揺れ動く地に立ちて、なお十字架は輝けり——東日本大震災の只

中にある教会」(聖学院キリスト教センター『キリスト教と諸学』28巻)ほか。

窪寺 俊之 くぼてら・としゆき

聖学院大学人間福祉学部教授, 聖学院大学大学院教授, 聖学院大学総合研究所スピリチュアルケア研究室長。

1939年生まれ。埼玉大学, 東京都立大学大学院で学び, アメリカのエモリー大学神学部(M.Div.), コロンビア神学大学院(Th.M.), リッチモンド記念病院でCPEの上級コース修了, 博士。淀川キリスト教病院元チャプレン, 関西学院大学神学部元教授。日本臨床死生学会理事, 日本スピリチュアルケア学会理事。

〔著書〕『スピリチュアルケア入門』, 『スピリチュアルケア学序説』, 『癒やしを求める魂の渇き』(編著), 『スピリチュアルペインに向き合う』(編著), 『スピリチュアルコミュニケーション』(編著), 『スピリチュアルケアの実現に向けて』(編著)など。

千葉 征慶 ちば・まさのり

1957年生まれ。上智大学大学院卒(教育学修士)。富士通株式会社カウンセラーを経て, 現在, 株式会社フィスメックシニアコンサルタント, NPO法人関西心理相談員会代表理事。臨床心理士, A級ロゴセラピスト。ロゴセラピーの理論に基づく「The Purpose in Life Test(略称PILテスト)」の日本版の開発者の一人。

〔共著〕『生きがい』河出書房新社, 1993年。『PILテストハンドブック』システムパブリカ, 1998年。『フランクフルを学ぶ人のために』世界思想社, 2002年。『暴力の発生とその連鎖』人文書院, 2003年。

〔論文〕「PILスコア(人生の意味・目的意識)のストレス緩和効果に関する一研究」(『経営行動科学』第8巻第1号1993, 33-40), 「PIL(生きがい)とSDS(うつ)との関係についての一研究——生きがいとはうつでないことか?」(『産業ストレス研究』第5巻第3号, 1998, 154-159), 「「意味への意志」とスピリチャリティ」(『全人的医療』第4巻第2号, 2001, 45-52)。「ロゴセラピーを仕事に活かす——職場のメンタルヘルスへの適用」(『日本ロゴセラピスト協会論集』第1号, 2009, 49-65)。

森田 美千代 もりた・みちよ

1946年生まれ。国際基督教大学大学院修士課程教育研究科修了(教育学修士)。ドルー大学神学部Master of Theological Studies修了(神学修士)。ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了(Ph. D.)。現在, 聖学院大学総合研究所教授。

〔著書〕*Horace Bushnell on Women in Nineteenth-Century America* (University Press of America).

『「キリスト教養育」と日本のキリスト教』(教文館), 『ブッシュネル「キリスト教養育」の成立過程研究』(日本キリスト教団出版局), 『人間の生と教育』(創言社) ほか。

〔訳書〕 ホーレス・ブッシュネル『キリスト教養育』(教文館), 『理想の大学』(創言社) ほか。

〔論文〕 “Horace Bushnell on Women in Family, Church, and Nation in Nineteenth Century Christian America.” Ann Arbor: University Microfilms International, 1999. 「ホーレス・ブッシュネル研究——『キリスト教養育』をめぐって——」(教授資格論文) ほか。

高 萬松 こう・まんそん

1953年生まれ。韓国・慶北大学校卒業。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了, 博士(アメリカ・ヨーロッパ文化学)。聖学院大学総合研究所助教(2014年3月まで)。

〔著書〕 『포사이스의 신의론(フォーサイスの神義論)』(基督教連合新聞社, ソウル, 2007年), 『歴史と神学』(共著, 聖学院大学出版会, 2006年), “Japanese and Korean Church Relations from 1945 to 1967: The Path to Reconciliation,” A. Fujiwara and B. Byrd eds., *Post-disaster Theology from Japan* (Seigakuin University Press, 2013)。

〔訳書〕 『바른기도와 그 열매(正しい祈りとその実り)』(大韓基督教出版社, ソウル, 1999年, P. T. Forsyth, *The Soul of Prayer* の韓国語翻訳), 『청교도』(基督教連合新聞社, ソウル, 2010年, 大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳)。

〔論文〕 「P. T. フォーサイスとピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「初期韓国教会とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4, 2010年), 「1970年代韓国教会の社会参与に関する神学の考察」(『聖学院大学総合研究所紀要』52, 2012年), 「日韓会谈反対運動と日韓教会交流」(『聖学院大学総合研究所紀要』53, 2012年) ほか。

宮 本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。同志社大学法学部卒。ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号(政治学)〕。日本国際問題研究所研究員, 聖学院大学総合研究所准教授を経て, 現在, 聖学院大学基礎総合教育部准教授。専攻は国際政治学, 政軍関係論, 安全保障論, 朝鮮半島研究。

〔著書〕 『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか? ——政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』(潮書房光人社, 2013年10月), 中川雅彦編『朝鮮労働党の権力後継』(共著, アジア経済研究所, 2011年10月), 中川雅彦編『朝鮮社会主義経済の現在』(共著, アジア経済研究所, 2009年3月)。

〔論文〕 「千里馬作業班運動と千里馬運動の目的——生産性の向上と外貨不足」『現代韓国朝鮮研究』13号(2013年11月) pp.3-13, 「朴槿恵政権による南北交流政策」『アジアワールド・ト

レンド』第19巻6号（2013年6月）pp.9–13, 「中朝関係が朝鮮人民軍創設過程に与えた影響」  
『韓国現代史研究』第1巻第1号（2013年3月）pp.7–29など。

Brian Byrd ブライアン・バード

Bachelor of Arts (1981), Economics, Pomona College; Master of Divinity (1984), Yale University Divinity School; Ph. D. in European and American Cultural Studies (2012), Seigakuin University Graduate School. Dissertation: *Toyohiko Kagawa: A Sympathetic and Critical View of a Japanese Christian Leader*.

〔Publications〕 *Post-disaster theology from Japan: How can we start again? Centurial Vision for Post-disaster Japan. A Theology of Japan*, Vol. 6, 2013, Seigakuin University Press (co-editor); “Understanding Japan’s Defeat, Finding the Way Forward: Orikuchi Shinobu and Kagawa Toyohiko.” *The Annals of the Japanese Association for the Study of Puritanism*, Vol. 3, 2008; “Reinhold Niebuhr on Toyohiko Kagawa: The Limits of Cooperatives and the Illusion of World Government.” *Kagawa Research Society Bulletin*, July 2012.